

3月23日(月) / 出席者104名

第169回通常議員総会 第6次中期ビジョン、令和8年度事業計画及び収支予算を承認

第169回通常議員総会を開催し、「新潟商工会議所 第6次中期（3ヵ年）ビジョン（案）」、「令和8年度事業計画（案）」及び「令和8年度収支予算（案）」について審議を行い、全会一致で承認しました。また会頭挨拶では、令和7年度の会員増強運動について、新入会員数219社となり、21年連続新規入会200社以上を達成したことを報告。年度末会員は4,626社の見込みで、会員数の純増は達成できませんでしたが、皆様からのご紹介・ご協力に感謝を申し上げます。



開会挨拶をする廣田会頭

第6次中期（3ヵ年）ビジョン（主な施策）

1. 企業の自己変革支援と「稼ぐ力」の強化

- ①「稼ぐ力の強化」「人手不足への対応」支援
- ②パートナーシップ構築宣言の一層の拡大
- ③自己変革による付加価値創出と収益力向上への支援
- ④生産性向上に向けた支援
- ⑤海外展開・貿易取引支援事業

2. 地域の活力強化につながる事業の推進

- ①「古町芸妓」等の花街文化の振興
- ②まちなかの魅力向上と活性化に向けた取組推進
- ③観光振興事業の推進
- ④既存航空路線の利用拡大、新規航空路線開設に向けた取組
- ⑤防災・災害対策の強化に向けた取組

3. 経済活動の課題解決に向けた提言・要望

- ①各種提言・要望活動の実施
- ②規制や制度改革に関する要望の実施
- ③社会資本整備に関する要望の実施

4. 発信力の強化と組織の充実強化

- ①情報発信力強化及び「見える化」の推進
- ②会員増強運動の推進に加え、退会数抑制のために会員エンゲージメントを強化
- ③日商保険・検定等推進による財政基盤強化 など

令和8年度事業計画

1. 中小企業・小規模事業者の稼ぐ力の強化と人手不足への対応

中小企業・小規模事業者の人手不足と賃上げ原資確保という課題を解決するため、生成AI導入やDX推進による「省人化・省力化」に加え、適切な価格転嫁の実現や付加価値向上を支援し、持続可能な賃上げ環境を構築する。

2. 地域経済の活力強化に向けた事業の推進

地域の活力強化に向け、「にいがた2km」周辺の賑わい創出、佐渡金山を活かした広域観光の推進、トキエア活用によるビジネス交流の拡大を図り、「選ばれる都市・新潟」の実現を官民一体で進める。

3. 提言・要望活動等の推進

地域雇用を支えている中小企業・小規模事業者の活力強化と経営環境改善の実現に向け、委員会活動等を通じて国や県、市に対する提言・要望活動を実施する。

4. 発信力の強化と組織の充実強化

DXによる業務効率化を継続しつつ、会員限定の共済や保険、専門家支援等のサービスを強化する。また、組織活性化及び活動強化のため、引き続き会員増強、組織拡大の取組を推進し、多様なニーズに応える組織としてのプレゼンスを高める。



令和8年度 収支予算総括表 〔 自 令和8年4月1日 至 令和9年3月31日 〕

(単位：千円)

会計別	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	比較増・減(▲) (A)-(B)
1 一般会計	333,044	319,280	13,764
2 中小企業相談事業特別会計	154,353	155,614	▲ 1,261
3 経営発達支援事業特別会計	5,245	6,383	▲ 1,138
4 まちづくり事業特別会計	6,854	10,404	▲ 3,550
5 会館管理特別会計	32,242	37,136	▲ 4,894
6 生命共済事業特別会計	72,718	72,058	660
7 生命共済見舞金特別会計	20,589	20,074	515
8 特定退職金共済事業特別会計	668,208	624,715	43,493
9 労働保険事務組合特別会計	137,829	134,716	3,113
合計	1,431,082	1,380,380	50,702

※令和7年度から商工会議所会計実務の改訂により、特定退職金共済事業特別会計において掛金受入（保険料）および同額の掛金積立（支払保険料）を計上

2月25日(水) / 出席者11名



開会の挨拶をする木山委員長

令和7年度第5回企業経営委員会を開催 企業経営委員会（木山光委員長）

日本商工会議所産業政策第一部 課長 鶴岡 雄司 氏を迎え、令和8年度税制改正について説明を受けました。主な内容は以下の通り。

- ・消費税インボイス制度に係る負担軽減措置の延長・拡充等
- ・青色申告特別控除の控除額の引上げ
- ・事業承継税制特例措置における特例承継計画の提出期限の延長

詳細は、当所HPに掲載の「令和6年度税制改正のポイント」をご覧ください。

2月27日(金) / 参加者78名



講演する永島氏

金融業部会／教育福祉医療部会共催講演会 金融業部会(殖栗道郎部会長) 教育福祉医療部会(渡邊毅部会長)

元ニトリホールディングス理事 永島 寛之 氏を講師に、「ニトリの現場力～“お、値段以上。”を実現するために～」と題し、組織マネジメントに関する講演会を開催しました。

退職者を見つめることで組織の本質的課題が見えてくるとし、人事問題は個人ではなく現場や経営の構造的課題と捉える視点の重要性が示されました。また、課題解決は「観察・分析・判断」を基本とし、現場の細かな変化やパターンに気づくことが重要と説明しました。さらに、社員の自発的行動を促すには「意味・関係・成長」といった非金銭報酬が重要と紹介されました。

2月26日(木) / 参加者32名



グループ別に情報交換を行う様子

自社 PR と異業種交流の場 ビジネス情報交換会を開催！

ビジネス情報交換会では、参加者同士が自社の技術・製品・サービスについての情報を交換することで、より直接的にビジネスチャンスの拡大に繋げていただいております。

参加者は1人1分のプレゼンテーションタイムの後、グループ別に分かれ、積極的に自社のPRを行いました。参加者アンケートでは、「異業種の方との情報交換ができて参考になった」、「次回も参加したい」などの声が聞かれました。

年4回開催しておりますので、是非、お気軽にご参加ください。

3月3日(火) / 参加者27名



IT業界の流れや現状を解説

面倒な作業から解放？ 生成 AI を活用した SNS 販促セミナー

イーンスパイア(株)代表取締役の横田 秀珠^{しゅうりん} 氏を講師に迎え、生成 AI を活用した SNS 販促セミナーを開催しました。

横田氏は、100人のペルソナ作成や投稿カレンダー作成といった面倒な作業は AI に任せられると解説したほか、指示通りの投稿内容の作成や、動画・音楽生成で他社と差別化する手法などを、具体的なツールの紹介や実演を交えて説明しました。

また、課題に合わせ AI を使い分ける力が今後は求められるとし、ライバル企業に勝つためには、効率化により生まれた時間で新たな価値を創出することが重要であると強調しました。

3月11日(水) / 出席者13名



委員会での協議の様子

通常議員総会の上程議案を審議
総務委員会 (吉田徳治委員長)

各分会・委員会の分会長、委員長で構成する総務委員会を開催し、通常議員総会に上程する「第6次中期(3ヵ年)ビジョン(案)」、「令和8年度事業計画(案)」及び「令和8年度収支予算(案)」について慎重審議の結果、いずれも原案どおり承認されました。また事務局から会員増強運動について、「新規加入200社以上を21年連続で達成できたが、今年度は会費値上げによる退会増等の影響を受け、会員数の純増は達成できない見込みである」との報告を行いました。

3月12日(木) / 参加者約320名



成果発表会の様子

古町芸妓が日頃の稽古の成果を発表
～第13回成果発表会「華つなぐ道」を開催～
古町芸妓育成支援協議会 (行形和滋会長)

古町芸妓育成支援協議会(当所事務局)は、13回目となる成果発表会「華つなぐ道」を新潟市民芸術文化会館能楽堂で開催しました。当協議会は、古町芸妓による踊り・三味線・太鼓などの技芸を伝承し、古町花街の基盤の強化と魅力発信を目的に活動しております。当日は、公募によって選ばれた市民や関係者など約320人を前に、古町芸妓が普段では見ることのできない稽古着姿で、日舞や長唄、囃子を披露しました。

3月12日(木) / 参加者72名



講演の様子

会員のネットワークとビジネスチャンスの輪を広げる
～新会員交流会～

入会1年～2年目の会員を対象とした新会員交流会を開催し、当所パワーアップ5000推進委員会 副委員長 竹中 広樹氏が「地域のつながりを“取引”に変える、小さな会社の販路設計～交流会から始める商工会議所活用術～」と題して講演を行いました。

竹中氏は、「会議所には活用できるコンテンツがとても多い。自分から積極的に使い倒していただきたい」とした上で、おすすめの活用方法についても述べました。

3月17日(火) / 参加者74名



講演会の様子

建設・不動産業部会／輸送業部会合同部会を開催
「企業に求められるこれからの“育て方改革”」を学ぶ
建設・不動産業部会(藤田直也部会長) 輸送業部会(生田雅祐樹部会長)

リクルートワークス研究所 古屋 星斗 氏を講師に迎え、「なぜ「若手を育てる」のは今、こんなに難しいのか～企業に求められる「育て方改革」とは～」と題する講演会を開催しました。

古屋氏は、いわゆる「Z世代」について一括りに捉えることは適切ではなく、社会全体の価値観が変化していると捉える必要があり、「理解できない存在」として対話を避けるのではなく、目の前の若手一人ひとりと向き合う姿勢が重要であると述べました。

また、若手の早期離職の背景には「キャリア不安」があるとして、自らの市場価値への不安や、キャリアの選択肢の増加が大きく影響しており、人材育成にあたっては、社外との接点を持つ機会の提供や、日常的なコミュニケーションの充実が重要であると話しました。加えて、企業単独の取組みにとどまらず、地域単位で若手人材を育成していく仕組みづくりの必要性についても言及しました。